

遠野を撮り続けた写真家 浦田穂一さんの世界



故浦田穂一さん

「なぜ写真を撮るのかと人に尋ねられれば、それはいろいろな人々との出会いの中で、シャッターを切っている時こそ自分の生きている証しだからである(写真展「遠野、この郷の記憶」浦田穂一の写真民俗学」の解説より)

浦田穂一さんは長年、遠野に生きた人々の暮らしをテーマに写真を撮り続け、国内のさまざまなコンテストで入賞を重ねるなど、現代日本を代表する写真家の一人でした。

紫波町で生まれた浦田さんは、勤めていた青森市の喫茶店で写真家の地名「二三氏」と出会い、写真の技術と面白さを知ります。その後、遠野に移り住み、昭和五十五年から博物館研究員として、写真による民俗文化財の調査活動や資料の収集などに貢献しました。また「民話のふるさと」をイメージした数々の写真は、遠野をPRする印刷物に数多く用いられ、観光産業の振

興に大きく貢献しました。浦田さんの作品の特徴は、被写体が見せるごくありのままの瞬間をとらえていることです。被写体に対し、自然に肉迫できることは容易なことではなく、浦田さんの朗らかな気質や被写体との親密な信頼関係、瞬間をとらえようとする執念と技術構成力のたまものでした。そのたくいまれる作品を展示した写真展「遠野、この郷の記憶」浦田穂一の写真民俗学が、平成十六年四月十日から五月十五日まで開催され、訪れた多くの観衆に深い感銘を与えました。写真展開幕から十一日後の五月二十六日、急な病に倒れ七十歳で帰らぬ人となりました。

【特別展を開催します】
市は、浦田さんが残した貴重な「遠野の記憶」をいつまでも心の中に共有しようと特別展を開催します。

◆会期 九月一日(金)から十一月二十三日(木)まで
◆会場 市立博物館特別展示室
◆展示作品 市立博物館所蔵のパネル張りモノクロ写真など
お問い合わせ先 市立博物館 (☎2340)

大木稲荷のトチノキ

稲荷が相次いだ江戸時代、ナラやクリ、トチなどの堅果類は貴重な保存食でした。特に山中で大きく生育するトチとミズナラは実も大きく、一本当たりの収量も相当なものでした。頻りに凶作や飢饉に襲われた遠野地方において、トチノキは保存食を確保するために植えられたものと思われま

す。本樹は二つの株からなり、幹回りは東株が三・六六、西株が三・八五、樹高は東株が二十三、西株が十九・五あり

ます。長瀬公政氏の祖先は、慶応三(一八六七)年、本樹のそばに稲荷様を祀りました。その名を「大木稲荷」と命名し、神木として大切に保護してきました。

トチノキは、湿润で肥えた土壌を好み、主に低山帯の沢沿いに生育する落葉高木です。大木稲荷のトチノキがある場所は、薄い表土の下が砂利であ

遠野風土記

大木稲荷のトチノキは、湿润で肥えた土壌を好み、主に低山帯の沢沿いに生育する落葉高木です。

行事予定

- 【8月】**
- ◇稲荷穴まつり 6日(日)午前10時 稲荷穴
 - ◇納涼花火まつり 15日(木)午後7時(雨天の場合、17日(土)に順延) 早瀬川緑地グラウンド
 - ◇市民野球大会 20日(日)午前8時30分 運動公園野球場ほか
 - ◇映画「日本の自転車泥棒」上映会 26日(土)午後1時30分、4時の2回上映 あえりあ遠野中ホール
 - ◇教育委員会定例会 31日(木)午前10時 市民センター第2会議室
- 【9月】**
- ◇パッセン街道「特産品まるごとフェスタ」 3日(日)午前10時 道の駅みやもり緑地広場
 - ◇地ビールと鮎まつり 9日(土)午前10時 柏木平優遊プラザ前駐車場ほか

シリーズ 5 野の草・木

タケニグサ けし科

山野によく見られる直立した大形の多年生草本です。夏に花を付け、草丈は1~2mになります。

草全体は黄緑色、根はだいたい色です。茎は中が空っぽの円柱形で、まっすぐ伸びた茎の先には無数の白い花を付けます。この花には花弁がなく、白く見えるのがく片です。

花が咲いた後、長さ2.5cmくらいの花柱が残ったしゃもじ状の果実を



つくります。葉は浅い大きな裂け目があり、茎の両側に互いに付いています。茎を切ると黄褐色の汁が出てきます。これは有毒で、衣服などに付くと落ちにくいです。

(上組町・青柳恵之)

図書館・博物館だより

☎ 62-2340

◆新着図書

- ◆一般向け
 - ▽ケツヘル(中山可穂)▽あめふらし(長野まゆみ)▽晩年の美学を求めて(曾野綾子)▽灰色のピーターパン(石田衣良)▽おしゃれの基本(西村玲子)▽せつないカモメたち(高樹のぶ子)▽旅のいろ(北方謙三)▽美しき日本の面影(さだまさし)▽千秋の讃歌(落合信彦)▽ドラマチ(角田光代)
 - ◆子ども向け
 - ▽バナナナン(和歌山静子)▽おぼけのもり(長谷川義史)▽ナツメグとまほうのスプーン(デイヴィッド・ルーカス)▽おならうた(飯野和好)▽吹きぬけの青い空(志津谷元子)▽そらまめくんのぼくのいちにち(なかやみや)▽リンドキストンの箱船(アン・ハラム)▽貝の子プチキユー(山内ふじ江)▽ガタタンゴトン(スズキコージ)▽むしのうた(杉浦範茂)
 - ◆催し物案内
 - ◆親子の映画会▽8月20日(日)午前10時30分

市長 ひろし

うーん・なるほど

「市政課題について現地で語る会を六月から七月にかけて市内十一地区で開催しました。約百三十力所の現場を、区長さんをはじめ多くの市民の皆さんと確認しながら懇談し、課題解決に向けた知恵と工夫、そしてヒントを頂きました。

現地を確認したからといって、すべて解決につながるかは毛頭思っていないんですが、あらためて「うーん」とうならざるを得ない所がかなりありました。区長さんたちを中心に話し合い、厳選した視察個所でしたので、このほかにも課題を抱えている現場はまだあると思います。

「簡単に解決できる」とは思っていない。その後の検討状況などの情報を欲しい。われわれ住民にできることは何かを共に考えたい」という言葉もありました。

現場や市民の皆さんの意見には、机上では発想できない「なるほど」と思わず手をたたく解決策があることを多く学びました。

対応いただいた多くの市民の皆さんに感謝しています。(本田敏秋)



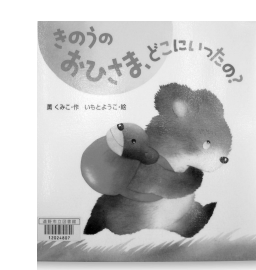
市指定天然記念物 所在地 土淵町土淵 所有者 長瀬公政氏

おすすめしたい本



「ひよこのひとりごと」 田辺聖子 著

他人は偉いが自分も偉い。七十歳はもう一遍、人生のねじを巻くとき。「婦人公論」の連載を単行本化。心優しい大人の知恵に満ちたエッセイ集です。



「きのうのおひさま、どこにいったの」 いもとようこ 著

くまくんは、ぽかぽかおひさまが大好き。けれど、おひさまは毎日お山の向こうにみえます。おひさまをひろってこようと、お弁当を持って出かけますが...